

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400304		
法人名	株式会社やさしい手京葉		
事業所名	グループホーム 明日花		
所在地	千葉県市原市能満1532-260		
自己評価作成日	令和8年2月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.yasashiite-keiyo.com/
【評価機関概要】	
評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和8年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は自然に囲まれているため、散歩するにはとても良い場所に位置しております。天気の良い日は散歩して、気分転換を図っております。また、小規模多機能型居宅介護も併設しており、施設自体が広がっているため、雨の日でも施設内で身体を動かすことができます。五井在宅クリニックと提携しており、医師が月の半分以上訪問して頂けるため、体調の悪い時などその都度、速やかに対応して下さいます。そのため、看取りの対応も可能となっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、ゆとりある敷地と静かな立地環境を活かし、落ち着いた生活空間を確保している。「明日もきれいな花が見られる生活」を意識し、利用者と共に花壇の維持管理を行うなど、地域資源としての環境づくりにも取り組んでいる。家事を細分化して一人ひとりが役割を担えるよう工夫し、自立支援と身体能力の維持につなげている。さらに、キッチンカーによる窯焼きピザやパン屋の来訪など楽しみの機会を創出している。リビングや食事時の座席も利用者同士の相性や状況に応じて柔軟に変更している。地区長と連携し掲示板に管理職の写真を掲出して福祉相談窓口を明示するなど、地域に開かれた運営を行っている。契約医師に加え看護師を配置し、医療面でも柔軟に対応できる体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念 :1292400304					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者が可能な限り、その有する能力を発揮し、自立した生活を送ることが出来るように支援します。 ・利用者が住み慣れた地域で地域の方々と交流を深めながら、生活を継続できるように支援します。 ・利用者の心に寄り添い、自立を支援するための最高の居場所を提供します。 ・家庭的な雰囲気大切に、利用者が安心して生活できる環境を提供します。 ・職員は質の高いサービスを提供できるように、専門的な学習、研修を通して、実践できるようにします。 ・明日もみんな元気で、美しい花が見られるように楽しく暮らしていけるようにします。	当該事業所は「認知症を超えて明日も元気に迎える生活」を理念に掲げ、利用者一人ひとりの有する身体能力を活かした支援を実践している。日常生活の中の作業を細分化し、できる部分を担ってもらうことで役割と達成感を確保し、自立支援につなげている。職員は利用者と共に一つの大きな家族として協力し合う姿勢を大切に、理念を日々の具体的な支援行動に結び付けている。	
2	(2)	事業所と地域のつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的な交流は出来ておらず、散歩の途中でのあいさつ程度となっている。	事業所は、敷地沿いの道路に掲示板を設置し、管理者の写真を掲示したうえで地域の福祉相談窓口であることを周知している。地域の地区長と連携し、敷地前面に美化運動の一環として花壇を整備し、水やりなどの役割を担うことで地域活動に参画している。今後は敷地内に果実の木を植樹する計画もあり、さらなる地域交流の広がりが期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、地域住民との交流が図れておらず、地域の人々に向けた貢献が出来ておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・施設の掲示板には相談窓口等、顔写真を入れてアピールした方が良いとの意見が出て、実施しております。また、ご家族や地域の人等へ食事一部を試食して頂く試食会の開催しております。	運営推進会議は二か月ごとに開催し、地域包括支援センターまたは市原市高齢者支援課職員、利用者家族、地区長が参加している。会議では利用者の外出事案を踏まえ、行政担当者へGPS貸与を依頼するなど具体的な相談を行った経過がある。さらに、地区長の提案を受け、ペースト食や刻み食など介護食の試食会を実施するなど、意見を実践につなげる取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して、市の担当者と情報の共有に努めております。また、市の担当者が運営推進会議に欠席した時は、報告書等を手渡しコミュニケーションを図るよう努めております。	地区長と日頃から連携し、地域行事や活動に積極的に参画している。行政への各種書類提出等は可能な限り直接出向き、対面でのやり取りを通じて関係構築に努めている。また、市高齢者支援課主催の集団指導や高齢者福祉に関する研修にも参加し、制度理解と支援の質向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けて、身体拘束を行わないように研修を通じて、取り組んでおります。また、玄関には電子ロックを設けておりますが、入居者が外に出たいときはスタッフが付き添ってその都度、対応しております。 2/9	車椅子使用者が立ち上がろうとする際は、「どうされましたか」と声を掛け動きをいったん止めてから職員が寄り添い、安全を確保している。ベッドからの転落リスクには床マットの設置やセンサー活用で対応し、身体拘束に頼らない環境調整を徹底している。状況変化については家族へ適宜連絡・相談し、共通理解のもとで支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を通じて、日々虐待が行われないように注意を払い対応しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解が深まっておらず、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学び、活用できるようにつなげていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、丁寧な説明を行ったうえで、不明点を確認し、同意を得て、署名・捺印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通して、意見を集い、意見結果を公表し、それを基に新たに運営を実施している。利用者家族が来所した場合は、利用者の様子などを説明している。利用者も家族が来ると表情も豊かになり、話しやすい様子である。	月一回程度、各家族へケアプランや介護計画、近況を電話やメールで報告し、その都度意見や要望を丁寧に聴取している。重要事項説明書には、地域包括支援センターや第三者機関、行政窓口など事業所以外の相談先を明示し、透明性を確保している。さらに二か月ごとに「明日花だより」を発行し、行事時の写真を添えて利用者の様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現状、月一回のフロアーミーティングを開催し運営等に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	現場での気づきや意見は、個別面談や全体会議を通じて把握し、内容を検討のうえ柔軟に運営へ反映している。勤務しやすい時間帯へのシフト変更や作業手順の見直しなど、実際の改善につなげている。また、代表者が年二回程度の個別面談を実施し、職員の声を直接聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2～3回程度代表者とお話する機会があり、そこで、各スタッフがお話ししております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回のフロアーミーティングを開催し議題をあらかじめ伝え、職員個々にそれぞれ考えて頂き発表し意見交換を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流ができておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に、ご本人・ご家族にお会いした際、ご本人の要望等をお聞きし、本人が安心して利用できるようにご家族の協力を得ながら、面会を多くして頂いたり、外泊を利用して頂いたり、たくさんコミュニケーションを図ることで関係性を構築しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や契約前等を利用し、ご家族が困っていること、不安なことを聞き取りしたり、他の入居者の事例等を用いて、安心するように関係を築いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にご家族やご本人とお会いし、必要としている支援を見極め、グループホームでの暮らしがどのようになるか、生活スケジュール等を説明し、ほかのサービスの利用も含めた提案や検討をしてお伝えしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをお願いするときなど、ご利用者と一緒に洗濯物を畳んだり、掃除をしたり、食器を拭いたりして、暮らしを共にしている者同士の関係を築いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご契約時、又は来訪時等、外出や外泊が出来ること、面会が出来ることを説明させて頂き、なるべく、ホームに来ていただきたいことをお願いしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会があります。また、馴染みの美容室に通われる利用者もおります。ご家族には外出や外泊等出来る旨をお伝えしております。	馴染みの美容院へ事業所から継続して通う利用者もあり、これまでの生活関係が維持されている。家族との外出や外泊後も、日頃から関わりのある職員がいる事業所へ自然に戻っており、安心できる居場所となっていることがうかがえる。広い敷地を活用し、キッチンカーやパン屋を招いて焼きたてのピザ等を提供するなど、入居前に親しんだ食を楽しむ機会も確保している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、座席の設定や孤立せずに関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了時には、ご家族等へ今後の不安な点等ありましたら、遠慮なく、お申し付けくださいとお伝えしておりますが、現状、ご家族からの相談等はありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約前やモニタリングの際に一人ひとりの生活に対しての希望、意向をお聞きし、困難な場合はご本人がどのように思っているか、どのような生活を希望しているかを検討し、本人本位になるように支援しております。	今年度は、入所が6名、退所8名と入居者の入れ替わりが顕著であったが、新規入所者におかれては、ご家族の前向きな意向とは裏腹に帰宅願望が強くあり、本人から真の意向を聞き出すことは難しい状況である。半年もすれば環境に慣れて頂け、スタッフとの信頼関係も徐々に高まり落ち着いては来るが、帰宅願望だけは根強く残っている様である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前は特に、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし等をアセスメントすることで、暮らしの把握を行っております。また、面会時等も利用し、子供からみた親の様子、孫から見た祖父母の様子、夫婦間の様子など様々な立場の方から、ご本人の生活歴等をお聞きすることで把握しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の出来ること、できないことを把握し、出来ることを行って頂けるように対応しております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の課題やニーズを見出し、ケアのあり方について、必要な関係者(職員や主治医等)と話し合うことで、適切な介護計画を作成しております。また、ご家族の面会時等でご本人の様子等をお伝えし、それに対してのご意見等をお伺いしております。	管理者がケアマネを兼務されていることから、日常ケアでのモニタリングの情報をもとに介護計画の見直しを検討している。月2回の訪問診療の結果もドクターとは情報共有し、難しい状況の時には施設長に相談したりしている。ご家族へのリアル面談による説明も行ないたいところであるが、なかなか来所して頂けない方も多く、改善が求められる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度、日々の様子をタブレットを用いて記録しております。その記録したものを共有し、申し送り等で、報告しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、病院等へ通院していただき、場合によってはスタッフが対応することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在のところ、地域資源としては医療機関のみです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医はおりますが、ご本人やご家族の希望を大切に、適切な治療を受けられるように支援しております。	提携医は五井在宅クリニックで、内科、精神科の専門医である。月2回の訪問診療で、全体診療と個別診療に分けて対応して頂いている。他科への診療はご家族対応にて介護タクシー等の利用で御願している。情報交換においても、任せっきりでなく、施設での状況を報告することによりその評価を個別に返して頂ける方式で、ケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で気づいたこと等、看護職に相談し、個々の利用者が適切な受診を受けられるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時等は速やかに連携シートを活用し、利用者が安心して治療を受けられるようにしております。また、担当者を決めて、病院関係者との情報交換を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における対応の指針というものに同意していただき、重度化した場合や終末期のあり方について、本人やご家族と話し合いを持って、事業所でできること出来ないことを共有し、主治医、スタッフ一丸となって取り組んでおります。	看取りに対するご家族の要望は、契約時とその段階では変わる事もあり、基本的にはいつでも変える事が出来るスタンスである。そういった意味でご家族自身の理解度を深めるためにも、必要な方には何度も話し合いの時間を持つようにしている。スタッフへの教育は今後年1回は研修会を持ち、特に若い方や外国人スタッフには力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っておりません。今後はミーティングを通し企画していきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	第一次避難先として、国分寺台東小学校。提携先として介護老人保健施設「杏の里」「ユーアイ久楽部」と協力体制を築いております。	地域の老人保健施設との提携により災害時の協力が得られる事になったことは大きな変化でもある。BCP計画についても単独事業所の訓練だけでなく、地域との協力が大きなポイントとなってくる事は言うまでも無く、このような活動の広がりが事業所の力に繋がってくるよう期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人が声のかけ方に注意を払い、尊厳やプライバシーを損ねないように気を付けて対応しております。	身体的、或いは生活空間でのプライバシーは共通認識が出来ていても、個人情報や、尊厳に関わる部分は個々に同じレベルで判断する事は難しい。日常ケアの中では職員本人が感覚的に捉えている知識の中で自己判断により聞き流す程度の対応しか出来ていないのが実情である。	外国人スタッフがいらっしゃる様であります。プライバシーの確保については日本人的な考え方(感覚)は理解出来ないところが多くあるように思います。これを早急に克服することが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人とのコミュニケーションを通じて、思いや希望など聞き取り、自己決定が出来るように働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人と相談しながら、その日、行いたいことを決めて、希望に沿った、支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望をお聞きしながら、その人らしいおしゃれが出来るように対応しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理することはできておりませんが、片付けなどは利用者と一緒にしております。3食とも外部業者より食事を調達しており、調理工程は温めて、盛り付けをする程度になっております。	外部業者から提供される食材(レトルト)を中心としたメニューとなっている。業者側で栄養士がメニューを考えてくれるので、事業所ではあたためだけで提供する事が出来る。最近ではイベント食やプラスアルファのメニュー追加も可能である。食事中は、雰囲気作りを心掛けるが、無言で食事をされる方が多く、食後の会話がくつろぎのひとつになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の好みをアセスメントし、食事量や水分量の把握を行い、記録し、状況に応じた対応を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人がどのくらい口腔ケアが出来るのかをアセスメントし、その利用者の状態に合わせて、毎食後、口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態に合わせて、トイレへの声のかけ方、時間、回数などを変更し、排泄の自立に向けた支援を行っております。(夜間にも、声掛けして、失禁回数を減らし、トイレでの排泄に向けて取り組んでおります)	利用者の強い力やスピーチロックにつながる声掛けには特に女性スタッフには注意している。排泄記録による声掛けは重要であるが、記録データのデジタル化については一覧性がないことから、どうしても手書きの記録に頼ってしまう傾向に有る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳を召し上がって頂いております。また、毎日の体操や天気の良い日は外の散歩、天気の悪い日は室内の歩行運動等、積極的に行っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況に応じて、午前中の時間や午後の時間で入浴できる環境と整えております。機械浴を使用している利用者は基本的には午前中にさせて頂いております。	週2回の入浴をお勧めしているが、どうしても入浴拒否をされる利用者があり、その説得には毎回苦労している。健常者にとっては生活の一つの楽しみであったものが高齢となると、面倒になってくるものである。同性介助を前提とし、入居者にとっては唯一リラックス出来、本音で話せる時間が持てる点では、職員はこの時間をうまく利用することが求められる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋の温度を調整したり、寝る時間が人それぞれなので、その人に合わせて、時間をお知らせしたり、安心して眠れるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と薬剤師の協力のもと、薬における副作用や目的などの情報を共有し、内服薬の変更があった際などは特に症状の変化に留意して対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを通して、出来ることを役割を持って行って頂いております。コーヒーや紅茶、ジュースなどを用意しております。また、買い物に出かけたり、散歩に出かけたり、することで喜びのある日々を過ごせるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく、散歩等には出かけております。初詣にも行くことが出来ました。	今年度は1月中旬に近所の大宮神社に8人の利用者と、5人のスタッフで、初詣に出掛ける事が出来ている。車イス利用者も含めたメンバーであった事からかなり大変だった様だが、これまで外出支援をやりたくても出来なかった状況から比べると大きな変化であるように思われます。今後継続して出来るかどうかは大きな判断となります。	外出支援については、利用者の楽しみや気分転換につながる大切な取り組みであり、機会づくりに努めている点は評価できる。今後も事業所内で過ごす利用者への配慮を行いながら、無理のない形で外出の機会を継続していくよう望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしており、買い物の際、一人一人の能力に応じて使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話等の持ち込みは可能だとお伝えしております。お手紙のやり取りは現在、行っている利用者はおりません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分には季節感を取り入れた装飾などを施し、居心地よく過ごせるように工夫して対応しております。	利用者が日中集まってくるリビングではスタッフによる季節感の演出や、生け花等飾られ、くつろぎや談笑の場となっている。利用者は自分の座る場所がほぼ決まっていて、時に口論となる事もあるようだ。スタッフは全員で行なうレクリエーションや、YouTubeでの体操などを行ないコミュニケーションの場作りに注力されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にご自身の座席や自由に座れるソファなどがあり、思い思いに過ごせるように居場所の工夫をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れたものを持ってきてくださいとお伝えしており、ご家族がご本人と相談しながら、持ってきていただいております。また、お部屋の配置も自由にお使いいただけるようになっております。フロアマット等使われる方もいらっしゃると思います。	居室内は、クローゼット、カーテン、ベッド、エアコンは備え付けで、その他ご自身の馴染みのものを持ち込まれている様である。居室内のレイアウトは居室担当者がお手伝いしながら変更を行なっているし、お掃除は早番職員が掃き掃除、モップ掛け等を行なう事になっている。中にはベッドの手すりをL字型に変更されたりしている方もあり、思い思いの生活の場作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の居室やトイレなどわかりやすく大きな字で掲示しております。手すり等もあり、出来るだけ自立した生活が送れるように対応しております。		